

県営農地開発事業 碑の除幕式と完工記念式典

豊かな農業を目指して

進め、豊かな農村社会を建設し、地域農業の発展を図る目的で進められました。

県営農地開発事業（普代地区）の完工記念碑除幕式と完工記念式典・祝賀会が十月四日、普代ダム完工記念碑前と国民宿舎くろさき荘で、村（深渡宏村長）、県

（山口和彦久慈地方振興局長）、受益農家の関係者や用地提供者、施工業者の代表ら約八十人が参加して行われました。

完工式に先立って普代ダムでは神事が行われ、記念碑を除幕して完成を祝いました。

深渡村長は「これらの施設を有効に活用して、活気に満ちた農村を築きたい」とあいさつ。山口久慈地方振興局長、熊谷聰村議会議長が祝辞を述べました。

県営農地開発完工除幕式

同事業は、山林原野の利用されていない台地の農地開発と未開墾地に隣接する既耕地のほ場整備、農業用排水の整備を行い、経営規模の拡大と中核農家の育成を行うことで、大型機械化作業体系による農業の近代化を

事業（普代地区）は事業費が約九十八億円で、向野場、和野山、黒崎地区が対象、受益面積は約百四十二畝、造成された農地約百畝、区画整備約十九畝、かんがい用水施設が整備されました。

昭和六十一年から段階的に栽培が行われ、現在はニンジン、ホウレンソウ、大豆などが生産されています。

普代ダムは、堤高三十七・三畝、堤長九十七畝、総貯水量百十三万トで平成八年に完成しています。ダムは、畑地かんがいの役割を担っていて、管理棟を合わせた工事費は約四十億円です。昨年十二月から村が管理しています。

同地区は、標高二百畝の丘陵台地で、山林原野に耕地が散らばっていたため、農家の規模は零細でした。また、地形的に農業用水の確保が困難で、かんがい設備の整備が欠かせませんでした。

元普代村長

岩澤義雄氏死去



故 岩澤義雄元村長

元普代村長岩澤義雄氏（上区）が十月二十一日、午後十時二十二分、久慈市内の病院で急性心筋こうそくのため死去されました。七十五歳でした。

村助役として村政の発展に尽力。昭和六十二年五月から平成十一年四月までの三期十二年間普代村長を務め、産業の振興、社会福祉の向上など、活力ある村づくりのため大きく貢献されました。この間、日本赤十字社表彰（金色有功章）、全国町村会長表彰（地方自治功労）を、平成十四年度春の叙勲では、勲五等双光旭日章（地方自治・元普代村長）を受賞しています。

謹んでごめい福をお祈りいたします。

久慈広域連合
介護保険料は現状維持で
（基準月額3,000円）
負担少なくサービスを充実

久慈広域連合（連合長・久慈義昭久慈市長）では、平成十五年から三年間の介護保険料を決めるため介護保険事業計画の見直しを行っています。

介護保険事業計画は五年間の計画ですが、介護保険料は三年ごとに見直すことになっています。全国的に値上げの報道がされていますが、久慈広域連合管内は現在の基準月額三千円を維持できる見通しです。

今回の介護保険事業計画の